

池上百竹亭コレクション

平成二十八年度第四期・平成二十九年度第一期

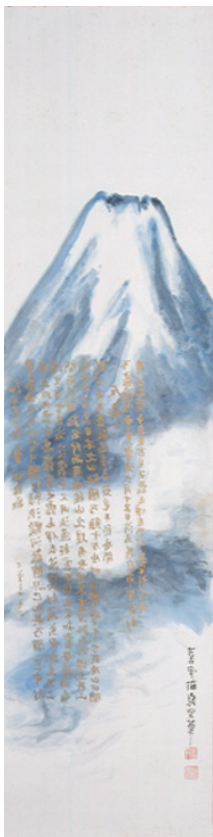
珊瑚会の画家たち

一月十一日～六月四日

池上百竹亭コレクションは、松本市の文人・池上喜作が生涯にわたって蒐集した近代文芸資料を主とする二〇一点の総称です。

作品の多くは、喜作が作家たちと親交を深めるなかで蒐められました。時には、喜作が直接作家へ依頼をして制作されたものもあります。さらに、喜作の取り合わせにより、独特の表具を施して仕立てた作品もあり、作家とコレクター双方により形成された珠玉のコレクションといえます。

今回の展示では、コレクションの中から「珊瑚会」に属した作家の作品をご紹介します。「珊瑚会」は一九一五年（大正四）に結成された日本画家を中心としたグループで、一九二四年までの間に一〇回の展覧会を開催しています。コレクションには、「珊瑚会」に属した四作家の作品が蒐集されており、特に喜作は会の中心的存在であった平福百穂、小川千甕と深い交流を持ちました。



小川千甕《不尽可能高嶺》



小川芋銭《寒厳二公》



森田恒友《江村迎客》



長塚節 平福百穂 添画《「あらかじめ〜」歌》